

平成30年度
入学試験問題

国語

2月5日 第1限

仁愛女子高等学校

問四 傍線の部分③「歌は詠みてんや」と言った理由を分かりやすく説明せよ。ただし「口実」という言葉を必ず用いること。

問五 傍線の部分④「頭の雪」は何をたとえているか書け。

問六 傍線の部分⑤「しもと」は掛詞である。その意味が分かるように、例にならってそれぞれ漢字をあてて書け。

例：「ふみ」——踏み・文

問七 傍線の部分⑥「人はいかにも情はあるべし」とあるが、「人」を「大隅守」と「郡司」の二通りに解釈した場合、「情」の意味として最も適当なものをそれぞれ記号で書け。

ア 風情 イ 友情 ウ 恩情 エ 強情 オ 薄情

一 次の記事を読んで、あとの問いに答えよ。(設問の都合上、文章には改変した箇所がある。)

2011年のある時、ぼくはこんなツイートをしました。

〈ぼくは、じぶんが参考にする意見としては、「よりスキャンダラスでないほう」を選びます。「より脅かしてないほう」を選びます。「より正義を語らないほう」を選びます。「より失礼でないほう」を選びます。そして「より I のあるほう」を選びます。〉
これは、あくまでも、どこまでも「事実」を尊ぶためにとっての姿勢を、ぼくなりにスケッチしたのが、右記の短文になったのだと思います。

・「よりスキャンダラスでないほう」を選びます。

「事実以上にスキャンダラス」に語ったら、人びとはコウフン^アしますし、こころのなかの野次馬はアバレ^イだします。なにか意図があつて衆目を集めたいときには、スキャンダラスな表現というのは、とてもツゴウ^ウのいいものです。 II 、そういう情報はとてもよく売れるのです。事実というものは、躍るようなことばよりも、数字や裏付けのある記録に残るものです。 III より奇なり、と言われる事実があつたとしても、それは証明が可能でなければなりません。

・「より脅かしてないほう」を選びます。

「脅かす」ことも、人を動かします。恐怖を前に出して、そこから逃れる以外の道はない、と行く手を塞^きがれたら、人びとはどうすることもできません。 IV 、脅かされるほどの事実があつた場合でも、そこからどうやって希望を見いだしていくのか、いっしょに考えるのが伝える人の役目^①だと思うのです。「こんなに怖い^c」で話を止めることや、誰のせいだというところを結論にしま^②うのでは、先が見えてきません。ここでも、「事実」を確かめることが大事になります。

② 「より正義を語らないほう」を選びます。

正義ということばは、とても便利に使える万能薬のようなところがありますが、昨日の正義は明日の罪であったり、わが国の正義は、敵国の犯罪であったりもするものです。大量殺戮さつりくを実行した政権だって、正義の旗印を立てて行進していたのです。正義を強調すること、事実を歪ゆがめてしまうという方法は、歴史的にもずいぶん取られてきたものです。正義であろうが不正義であろうが、事実が曲げられては困るのです。

・「より失礼でないほう」を選びます。

これで、じぶん以外の人間をどう扱おうとしているかがわかります。なにかのために、礼を失してもいいという考え方が実現したいことには、人間に対しての失礼dな部分があると思うのです。

・そして「より I のあるほう」を選びます。

事実、事実と何度も書いてきましたし、それだけが大事なのだと言ってきましたが、やっぱり、せっかく人間として生きているのだから、それをたのしめなきゃね、というような気持ちは隠せません。おまけのように「そして」と付けていますが、息苦しいのは嫌なんですと言っておきたかったのです。

じぶんで書いていて、思いました。そうだなあ、③「姿勢」って、ことばになつてないけれど、いちばん多くを語ってくれるものなんだなあ、と。

(早野龍五、糸井重里『知ろうとすること』による)

※「衆目」——多くの人の見る目

問一 二重傍線の部分ア「コウフン」・イ「アバ」・ウ「ツゴウ」を漢字で書け。

問二 空欄Ⅰに入る最も適当なものの記号を書け。

ア スリル

イ メッセージ

ウ ユーモア

エ メリット

問三 空欄Ⅱに入る最も適当なものの記号を書け。

ア しかも イ だから ウ しかし エ つまり

問四 傍線の部分 a 「とても」・ b 「そこ」・ c 「怖い」・ d 「失礼な」の品詞名の組み合わせとして最も適当なものの記号を書け。

ア a 副詞 b 代名詞 c 形容詞 d 形容動詞

イ a 副詞 b 名詞 c 形容詞 d 連体詞

ウ a 連体詞 b 代名詞 c 名詞 d 形容動詞

エ a 連体詞 b 名詞 c 形容動詞 d 連体詞

問五 空欄Ⅲに入る言葉を漢字二字で書け。

問六 空欄 IV に入る最も適当なものの記号を書け。

ア 大目に見て

イ 百歩ゆずって

ウ 一も二もなく

エ まゆにつばをつけて

問七 傍線の部分①「伝える人の役目」について、人々に事実を伝えようとする人の役目とはどういうことであると筆者は考えているか。四十字以上、五十字以内で書け。(句読点を含む。)

問八 傍線の部分②「『より正義を語らないほう』を選びます」について、なぜ筆者はより正義を語らないほうの意見を参考にするのか。その理由を「事実」という言葉を用いて、三十字以上、四十字以内で書け。(句読点を含む。)

問九 傍線の部分③「こころのありようについてか、『姿勢』」について、具体的に述べている部分を、本文から十七字で抜き出して書け。

問十 筆者の主張として最も適当なものの記号を書け。

ア 人々が恐怖を感じるような事実は参考にしてはならない。

イ より多くの人々の関心を集めるような情報を参考にすべきである。

ウ 数字や裏付けのある記録をもとに事実を一つ一つ確かめていくことが大事である。

エ 脅かされるほどの事実があった場合、責任の所在が誰にあるのかを明らかにすべきである。

次の文章は、朝井リョウ『世界地図の下書き』の一節である。両親を交通事故で亡くした小学二年生の太輔は、父親の兄である伯父さん夫婦に引き取られることになる。自分たちを「お父さん、お母さん」と呼ぶことを強要する伯父夫婦を、太輔は「お父さん、お母さん」と呼ぶことができなかった。そうして日々を過ごしていくうちに、伯母さんは目を合わせてくれなくなり、伯父さんは体を叩いてくるようになった。これを読んで、あとの問いに答えよ。

引き取られるその日、太輔は、お父さんに買ってもらった黒いランドセルの中にお母さんの作ったキルトをできるだけたくさん押し込んだ。やわらかいキルトはすぐに I 膨らんでしまうので、詰め込むのにとっても時間がかかった。やがて玄関のドアが開く音がした。伯母さんが迎えに来たのだ。太輔は急いだ。

最後に詰め込んだひとつは、青と水色のチェックの給食袋だった。

お母さんは、よくキルトを作っていた。たまに家に人を呼んで、教室のようなこともしていた。コンクールで賞をもらって、大きなホールに作品が展示されていたこともあった。

お母さんはキルトを作るとき、まずは布をばさつとはためかせる。そのときに起こる風のおいが太輔は大好きだった。

② 伯母さんと伯父さんは、太輔の前で絶対に両親の話をしなかった。それは、太輔の心を傷つけないようにというハイリョではなく、はじめから話題にしようとしていないのだった。まるで太輔の両親などいかなかったかのように振る舞いながら、自分たちをお母さん、お父さんと思わせようと、とにかく必死だった。

この人たちに見つかってはいけない。そう思った太輔は、たたみと布団の間にキルトを隠した。伯母さんが布団をたたんで見つけてしまうなんて、そんなことそのときは考えられなかった。

キルトを布団の下に敷いて寝ると、お母さんとお父さんの夢をよく見た。

ある日、布団の下からキルトを見つけた伯母さんは、お母さんにまつわるものを全て処分した。「こういうものがあるから、太輔は私のことお母さんって呼んでくれないのよ」写真も、キルトも全て捨てられた。ランドセルの中に隠していた給食袋は、見つからなかった。

それからは、いままでみたいに夢を見られなくなった。枕の下に給食袋を敷いてみたけれど、それでも夢は見られなかった。だから

太輔は、必死に思い出した。叩かれたところが痛むときは、自分の太ももをつねってその痛みを散らそうとした。

「ほら、太輔とお父さん、そっちとそっち持つて」

お母さんのことはいつも、II から思い出される。

「うう？」

お父さんとふたりで III していると、カメラを抱えたお母さんが、レイセイに指示してくるのだ。いつもそうだった。

「太輔、腕ぴーんて伸ばして、低いから、そう、あー、お父さん入ってる。別にお父さんは入んなくていいから」

キルトのコンクールは、一次審査は写真のみ、二次審査に進んで初めて現物を見てもらえる。それを通過してやっと審査の対象となるのだ。作品は大きいから、こうやってみんなで手伝わないと全体をきれいに撮ることができない。

「なんか今回、今までのとちがう？」

表側を覗き込みながら太輔は言う。どれどれ、とお父さんも覗き込む。「だからお父さん顔人っちゃってんだって！」

これまでのキルトは、どちらかという女の子が好きそうな感じだった。ピンクと赤のハートだったり、水色の模様だったり。けどこのときのキルトには、ベースの色が藍色のような暗い色で、ぼつぼつと黄色や白がちりばめられていた。夜空のようにも見えるけれど、それにしては明るくてやさしい。

思い出す。思い出す。

「今回はね、ちよつと変えてみたんだ」

さすが太輔は気づくねえ、とお母さんが笑い、お父さんが少しスネる。

「ほら、蛍祭り。なんだかんだ今まで行けてないでしょう。今年は一緒に行きますようにっていう、お願いも込めてね」
申し訳なさそうに「仕事がなかなか……」と俯くお父さんに、わかっているって、とお母さんが笑いかけている。

二人がいなくなる直前の記憶。磨り減りそうになるたびに、無理やり思い出して、もう一度塗り固めていく。

「ハイそのままキープキープ、じゃあ撮るよ」

思い出す。声を、会話を、温度を、あの家を、表情を、話し方を、目を、指を、ひとつも残さず、必死に。

シャッターが押されるそのシユンカン、太輔はぎゅつと目を瞑った。

「ちよつと太輔、こんな明るい部屋でフラッシュユたくわけないでしょ」

ぎゅつて顔しかめてたよいま、と、お父さんに向かって笑いかけるお母さんの横顔。

新しいことを思い出せたときには、ぼとりと涙が出た。^④伯父さんに叩かれた場所が余計に痛む気がして、涙が出た。

※「キルト」——二枚の布の間に綿などを入れて、さしぬいをしたもの

問一 二重傍線の部分 ア「ハイリヨ」・ウ「レイセイ」・エ「シユンカン」を漢字で書け。

問二 二重傍線の部分 イ「布団」の読みを書け。

問三 傍線の部分①「キルト」について、「キルト」とはどのようなものであったか。適当でないものの記号を一つ書け。

ア 太輔にとって、家族との思い出を象徴的に表すもの。

イ 太輔にとって、伯母さんとの絆きずなを深めることができるもの。

ウ 伯母さんにとって、太輔との関係に水を差すとても目障りなもの。

エ 太輔にとって、お母さんについての記憶をよみがえらせてくれるもの。

問四 傍線の部分②「伯母さんと伯父さんは、太輔の前で絶対に両親の話をしなかった」について、太輔の伯母さんと伯父さんは、なぜ太輔の前では絶対に両親の話をしなかったのか。その理由を、解答欄の「くから」に続くように本文から六十字程度で抜き出し、最初と最後の五字を書け。(句読点を含まない。)

問五 空欄

| | | |
|---|--|-----|
| I | | III |
|---|--|-----|

 に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものの記号を書け。

ア I ふつくらと III てきばき

イ I べちやつと III がっかり

ウ I ぶわりと III あたふた

エ I ばんばんに III のんびり

問六 空欄 II に入る言葉を本文から漢字一字で抜き出して書け。

問七 傍線の部分③「磨り減りそうになるたびに、無理やり思い出して、もう一度塗り固めていく」について、なぜ太輔は両親の記憶を「磨り減りそうになるたびに、無理やり思い出して、もう一度塗り固めていく」としたのか。その理由を三十字以上、三十五字以内で書け。(句読点を含む。)

問八 次の一文が入る直後の文の初めの五字を抜き出して書け。

そうだ、お母さんは右ほほにだけえくぼができる。

問九 傍線の部分④「伯父さんに叩かれた場所が余計に痛む気がして、涙が出た」について、なぜ太輔は伯父さんに叩かれた場所が余計に痛む気がしたのか。最も適当なものの記号を書け。

ア 両親の記憶がよみがえることで、本当の親のように親身になってくれている伯父さんと伯母さんの機嫌をそこねてしまうのではないかと心配になったから。

イ 自分たちのことを本当の両親だと思っただけという伯父さんの気持ちに痛いほど分かっていたので、両親の記憶を思い出すことに罪悪感を感じていたから。

ウ 両親への思いを吹っ切れないことで、互いにつつかり合いながらもなんとか築き上げてきた伯父さん・伯母さんとの信頼関係が崩れてしまうのではないかと危機感を感じたから。

エ 両親について新しいことを思い出すことができ、涙が出るほど嬉しかったのだが、そのことがかえって、両親がもうこの世にはいないことを痛切に感じさせたから。

三 次の古文を読んで、あとの問いに答えよ。(設問の都合上、文章には改変した箇所がある。)

今は昔、大隅守(宗一)おおすみのかみなる人、国の政(まうりごと)をしたため行ひ給ふ間、郡司(宗二)①いんじのしどけなかりければ、「召しにやりて戒めん」といひて、先々の様(さま)にしどけなき事ありけるには、罪に任せて、重く軽く戒むる事ありければ、一度にあらざ、たびたびしどけなき事あれば、重く戒めんとて、召すなりけり。「ここに召して、率(み)て参りたり」と、人の申しければ、先々するやう(ア)にし伏せて、尻(かしろ)、頭(かしら)のほり居たる人、答(しもと)を設けて、打つべき人設けて、先に人二人引き張りて、出で来たるを見れば、頭は黒髪も混らず、いと白く、年老いたり。

見るに、打せん事(イ)いとほしく覚えければ、何事につけてかこれを許さんと思ふに、事つくべき事なし。過(あやまち)どもを片はしより問ふに、ただ老(おい)を高家(かうけ)にていらへをる。いかにしてこれを許さんと思ひて、「おのれはいみじき盗人かな。歌は詠みてんや」といへば、「はかばかしからず候(まぶら)へども、詠み候ひなん」と申しければ、「さらば仕(つかまつ)れ」といはれて、程もなく、わななき声にて打ち出す。

年を経て頭(④)の雪はつもれどもしもと見るにぞ身は冷えにける
といひければ、いみじうあはれがりて、感(⑤)じて許しけり。人はいかにも情(なまけ)はあるべし。

今は昔のこと、大隅の守であった人が国のまつりごとを執っておられたが、郡司がだらしなかつたので、「呼びにやうて罰しよう」と言った。実は前々にもこのようにだらしないことのあつた時には、その罪によつてあるいは重くあるいは軽く戒めていたが、この郡司は一度ならず、たびたび不始末があるので、今度は重く罰しようとして呼び出すのであつた。「ここに呼び出し、連れて参りました」と、人が言ったので、前々からしていたとおりに、うつぶせにして、尻や頭(ど)のつかる人、鞭(むち)を用意して打つ役の人を準備して、まず二人の人が引つ張つて、出て来たのを見ると、頭は黒髪もまじらず、真つ白で年をとつていた。

見ると、鞭打つこともふびんに思われたので、何かにかこつけて許してやろうと思うが、口実にすべきことがない。あやまちなどを片端から聞くと、ただ年寄りのために怠つたことを口実にして答えている。I と思つて、「おまえはほんとうにしようのないやつだな。歌は詠めるか」と言うと、「たいしたことはありませんが、詠みましよう」と申したので、「それでは詠め」と言われて、まもなく震え声で詠み上げる。

「年を経て頭の雪はつもれどもしもと見るにぞ身は冷えにける」

と言ったので、ひどく感じ入り、心動いて許してやった。

(小学館日本古典文学全集『宇治拾遺物語』による)

※1 「大隅守」——九州の一国、大隅の国司

※2 「郡司」——郡を治める職名

問一 波線の部分ア「やうに」・イ「いとほしく」を現代仮名遣いに直して書け。

問二 傍線の部分①「郡司」はどのような人物であったか。最も適当なものの記号を書け。

- ア 次々とうそを並べて言い訳をするずる賢い人。
- イ 何事にもだらしなく救いようのないように見える人。
- ウ 国の政治を任されている優しい心を持つ人。
- エ だらしなない郡司のふりをして好き勝手をしている人。

問三 傍線の部分②「いかにしてこれを許さん」の現代語訳として空欄 I に入れるのに最も適当なものの記号を書け。

- ア なんとしてもこれを許すことはできない
- イ どうしたら自分は許してもらえるか
- ウ どうしても自分は許されないだろう
- エ 何とかこれを許してやろう

受験番号

平成三十年度 仁愛女子高等学校入学試験 国語解答用紙

一

問一 ア
イ
ウ

問二
問三
問四

問五
問六

問七
50 30 10
40 20

問八
30 10
40 20

問九
10
17

二

問一 ア
ウ
エ

問二 イ
問三

問四
から。

問五
問六

問七
30 10
35
20

問八
問九

三

問一 ア
イ
問二
問三

問四

問五
問六
問七 大隅守 郡司